

令和5年8月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

一部業種に酷暑や台風の影響はあったものの、総じて売上高は増加傾向にあるが、ガソリンや電気料金等の高騰に価格転嫁が追い付かず、収益を圧迫している状況が続いていることから、全体の景況DI値は僅かな上昇にとどまっている。

また、人手不足により納期遅れや受注断念に至ったとの報告や、10月からの最低賃金の大幅な引き上げを危惧する声が寄せられており、人材確保に係る問題が、中小企業の経営に大きな負担となっている。

慢性化・深刻化している人材不足や、電気料金・ガソリン価格等の更なる上昇が懸念され、先行きへの不安感が拭えない。

山口県の主要指標 DI 値（令和5年8月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：8.8% 悪化：35.0% DI 値：▲26.2% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：22.5% 減少：27.5% DI 値：▲5.0% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：12.5% 悪化：35.0% DI 値：▲22.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年8月末現在）

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業	
▲37.5	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲66.7	▲25.0	▲33.3	▲46.9	
卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業	全体
▲20.0	▲37.5	0.0	18.2	▲36.4	0.0	0.0	▲12.5	▲26.2

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>盆の期間は前年より売上が増加したが、8月全体で見ると、酷暑や台風が影響し売上は減少傾向である。最低賃金の上昇は菓子業界の経営基盤に対する影響が大きい。</p>	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	<p>猛暑のため売上が減少した。</p>	パン・菓子製造業 下関市
	<p>コストの上昇が続いており、特に電気料金の値上げが、冷凍庫の維持費に大きく影響する。地産地消や、水揚げされた原魚の有効利用を進める必要がある。人手不足が深刻で先が見えない状況である。</p>	水産食料品製造業 長門市
	<p>コロナが5類に移行し催事等が行われるようになり、関連した商品を取り扱っている企業はそこそこの売上があった模様。円安により海外からの仕入れの値上がりが続き、原材料や添加物等の値上げも止まらず商品の単価に影響している。最低賃金の引上げ額が高く、人手不足も重なって大変厳しくなる一方である。</p>	水産食料品製造業 下関市
	<p>梅雨明けから続く猛暑・酷暑は食品の管理に神経を使い、組合員の疲労はピークに達し、多めの盆休みを設けて疲労回復を図った。前年並みの売上高が見込まれ、好調が続いているが、仕入先が9月に廃業することとなり、仕入取引が難しくなるうえ、猛暑の影響で野菜の高騰が続いており、今後の成り行きに注視したい。原油価格・物価高騰等対策支援補助金の交付でエアコンと冷蔵庫を購入するが、電気料金の値上げが少しでも抑えられることを願う。</p>	食料品製造業
	<p>コロナ感染もほぼ収まり飲食店等も通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。台風の複数発生による気象災害が懸念されている。肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げを頑なに拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。豪雨災害だけでなく大型台風の襲来など、地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入等、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。ロシアがウクライナに侵攻し、1年以上が経過したが、全く終息する気配も無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。中国からの輸入に頼っているリン酸の価格も上昇し、肥料価格が前年比150%アップという驚異的な結果となった。政府の原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、とくに、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。インボイスへの対応が求められるが、併せて電子帳簿保存法への対応も必要となる。</p>	精穀・製粉業
繊維工業	<p>受注は良好。人材不足が慢性化している。</p>	外衣・シャツ製造業

木材・木製品	岩国市の錦帯橋創建 350 年記念イベントに使用する「あんどん」の木枠を作成した。他、文化財にまつわる仕事の依頼がある。	製材業・木製品製造業 岩国市
	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和 4 年 8 月と比べ 5%の減少。この 4 月～6 月の売上は前年同月比で減少が多数で、7 月以降に増加に転じた組合員もあるが、景気の回復感は依然として感じられない。相対的に住宅需要が減少傾向で、木材価格はウッドショック前に概ね戻りつつある。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	印刷物の受注が減少し、工場もフル稼働しない日が多くなった。昨年の大口物件が無くなり厳しい状況は続きそうである。	印刷業 山口市
	ガソリン価格が国の補助金の段階的な縮小により高騰し、電気料金・ガス料金についても 10 月からの値上げが発表された。エネルギー関連の価格高騰は、食料品と共に日常生活に不可欠で国民生活を直撃するものであり、企業にとっても経営上非常に頭の痛い問題である。印刷業界も依然として原材料価格は高止まりしたままであり、各企業収益の大きな圧迫要因となっているが、既存工程、手法の見直しや仕入ルートの新たな開拓など、知恵を絞って対応している。唯一、コロナ明けで再開されたイベント関係の需要は好調であるが、主催者が従来の慣行であった印刷物を取り止めるという動きも出てきている。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	設計価格が反映される 6 ヶ月後には、原材料、輸送費等が更に高騰し、常に追い付かない期間が 2 年以上続いている。更に工事期間が 6 ヶ月以上かかる現場が多く、出荷時には原価アップしており経営悪化に拍車を掛ける要因となっている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷状況は前年比 40%の減少。電気代、原材料（セメント、骨材）の値上げが収益を圧迫しており値上げを検討している。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比 90%、前年同月比 85%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定しているが、やや上昇している。	生コンクリート製造業
	県外からの墓地の撤去依頼が多くなっており、土日に多い来県日のスケジュール調整も重要となっている。燃料費・電気代等は、高すぎるので、大変厳しい。	石工品製造業
	コロナ以来、慢性的な受注の減少・売上の低迷、経費の増大、これから業績が劇的に上向く可能性も低く、廃業を検討しているところがある。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	例年、8 月は閑散期に入るが、今年は受注もあり仕事がなくて困っているところはない。	一般機械器具製造業 下松市
	売上高が上昇したが、大手自動車メーカーの纏まった案件が 7 月、8 月と重なり売上高と設備稼働は上昇したが、四半期・半期で考慮した場合は予定の範囲内で収まっており、業況に大きな変化はない。原材料費の値上げは落ち着いてきたが、まだ購入品等は値上がりしている。引き合いは依然として多いが、人手不足が解消せず、納期遅れ等の影響が出ている。人材を探して、数年、お金もかけ手を尽くしたが、国内も海外（ベトナム）も叶わず、現在は、熟練オペレータの里帰り等に期待し待つのみとしている。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>円安、ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界情勢の不安定化によるロシア、中国とアメリカ、EU、日本との経済摩擦は先が見えない状況である、資源高、資源不足もあり企業収益に大きな影響が出ている。中国の景気悪化に伴い、大手機械部品メーカーの発注が激減しており下請け関連企業に大きな影響が出てきているが、年内は回復の兆しはない。電気、ガス料金にとどまらず、物価の上昇は中小企業にとって大きな負担である。事業量は確保しているが人材の確保に苦慮しており、サービス業において特に人材確保が困難な状況である。外国人材確保の面では、他国に比して低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾との人材確保競争は厳しいものがあり、採用決定者の辞退申出がある等、企業にも不安が広がっている。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。企業努力は当然であるが、企業努力だけでない抜本的な対策を講じないと、企業の存続が危ぶまれる。</p> <p>1 社組合員の廃業があった。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>設立間もない組合のため売上はまだ無い。組合員の売上は減少傾向であるが、大きく下がってはいない模様。</p>	一般機械器具製造業 下関市
輸送機器	<p>鉄道車両関係は海外（台湾・エジプト・米国等）からの受注があり順調に推移しているが、受注量は令和7年（2025年）度以降から減少となる見通し。原材料費や電気料等の水道光熱費の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予定よりも大幅に受注量も減少しており、引き続き今後の受注動向を注視したい。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>倉庫保管料の値上げや海産物（カキ）の入出庫の増加、いりこの入庫増加が重なり、倉庫売上は過去の同時期より増加し、現在は良い傾向にある。しかし、前年度は海苔の不作等もあったので、今後も注視していく必要はある。</p>	乾物卸売業
	<p>「漁獲量は昨年より減少だが魚価が高騰しており、なんとかやっている。しかし、燃料費は既に1.5倍に高騰し、自助努力の範囲を超えているので国の助成は継続してもらい必要がある。」と沖合底曳網手繰船の漁業者は話す。仲卸も各種高騰で収益が悪化している。中国の日本産水産物輸入全面停止の影響は、中国の消費量が日本より多く高値で購入されていた「マナガツオ」等で影響がある。組合員の1割程度の該当者ではあるが、金額に換算するとかなりの金額となる。体調不良や高齢化、後継者不在等で廃業検討の組合員がある。魚の新しい売り方として、下関市では「デジタル水産業」の取り組みが始まっている。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>ガソリン価格の高騰が収益を圧迫している。</p>	各種商品卸売業 防府市
	<p>猛暑が続き飲料等の売上が増加した。</p>	各種商品卸売業 山口市

小売業	<p>コロナ前の売上を出すのが難しい店舗もある。物価の高騰によりお客様の財布の紐がきつくなっただけではないか。山口県はインバウンドなどの恩恵はそれほど望めないと思われる。酷暑でメイクや UV 関係が好調の様相。お肌へのタッチアップやエステなどお客様の美（化粧品）への意識は上がっており、化粧品専門店として意識して店頭活動をするよう伝えていきたい。</p>	化粧品小売業
	<p>秋に向けてイベントの企画も増え、商店街の人通りも増加して見える。コロナ禍や資材価格の高騰等の影響で、徳山駅前再開発施設の全面オープンが 2023 年 12 月から来春に延期となったのは残念だが、12/2 に駐車場の供用開始、2024 年 1 月から春に向けてホテル、商業棟を順次オープンさせる予定のようである。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>8 月の売上は、前年同月比約 1.5% 減少。盆期間後半に台風が重なり帰省客の動きに影響が生じる恐れが懸念されたが、来館者数、売上共にほぼ前年並みで推移。物価高が続き地元客の消費額は減少傾向にあるが、夏休みの観光需要で売上を確保でき、7 月に比べやや好転した。原材料価格等のコスト負担増で収益確保は依然厳しい状況である。</p>	各種商品小売業 萩市
	<p>8 月の供給高は、日曜日を店休日としたため前年比 94.1%、来店者数 86.9%。猛暑の影響もあり日中は来店者が少ない。商品の値上げが続いているため、毎週水曜日のプラチナタイムセール（開店～13 時まで全品 5% OFF）の来店者と、土曜日（日曜日が休みのため、見切り商品目当て）の来店者が増えている。夏休みが終わり、売れ筋商品も変わるので品揃えに注視していく。</p>	各種商品小売業 下関市
商店街	<p>小売業の多くはバーゲンシーズンになったが、インターネット販売等では一年中がバーゲンのような市場なので、商店街の小売店舗に 10 年前のような賑わいは見られない。飲食店は盆前後で変動の幅が大きく、盆明けは宴会や外食が減少する傾向で、売上が減少傾向。9 月からは街イベント等が盛んに開催されるので、小売店が多い商店街でも秋商戦を掲げて猛ダッシュする予定。業種業態に拘わらず消費構造の変化が著しく、旧態依然とした売り場や売り方では消費者が遠ざかってしまうため、新たな手法を模索しなくてはならない。</p>	岩国市
	<p>異常気象により農作物の生産量が大幅に減少し、青果物の値段が大幅に上昇、入荷量も減少した。値段が高いため販売量も減少した。この状態が続くと経営的に苦しくなる店舗が増加する可能性が大きい。飲食店も原価が高くなるので、苦しくなると思われる。</p>	山口市
	<p>プレミアム商品券の効果が大きい。商業の活性化には現状では一番の施策と思われる。</p>	宇部市
	<p>プレミアム付き商品券の販売により多少潤った模様。人出も多少増えたが、酷暑の中、買い手も売り手も大変であった。プレミアム付き商品券は使用期間が長いいため、各店で思い思いの販売方法を考えている。</p>	萩市
	<p>依然として商店街の人通りが少ない。コロナ感染が蔓延している影響もあると思われる。秋以降、「プレミアム商品券販売」、「長府時代祭り」とイベントが控えているので期待したい。</p>	下関市

サービス業	台風や豪雨の影響もなく猛暑日が続く中でも、例年通りの状況である。	美容業
	売上は増加傾向だが、物価高騰等で不安である。	理容業
	7月の中古車登録台数は前年同月比2.2%増で3ヶ月連続の増加。半導体等の部品不足による新車供給の遅れから中古車不足が続いてきたが、市場を悩ませていた「タマ不足」がようやく解消に向かい活気を取り戻してきたものの、この回復基調が続くかどうかについては楽観視できない。自動車保険金の不正請求問題に揺れる大手中古車販売店の不祥事がユーザーに衝撃を与え、中古車業界をはじめとした自動車業界全体の信頼が大きく揺らぎかねず、市場回復の流れに水を差すことにもなりかねない。今後の調査結果も踏まえ注視が必要な状況である。	自動車整備業
	値上げで売上高は少し上がったが、電力の値上げ率が異常で会費の値上げをしても追いつかない。電力価格の地域差をなくす検討を願っている。入会動向にも県内で地域差があるが、電力価格の上昇等で家計が圧迫されているのか、入会動向が鈍い。	スポーツ・健康教授業
	8月はコロナ前と比べて売上が増加していない事業所も多かった。集配で使用するガソリンや、工場の電気代など、利益を圧迫する要因が大きくなり、今後の収益に懸念がある。	普通洗濯業
	コロナやインフルエンザ感染で、スタッフの欠勤はあったが、お客様への影響は特になかった。	飲食業
	前年同月比で、売上は100%、宿泊人員は121%と前年をクリアした。前年10月から1宿が組合員となり宿泊数が増加したため、今年度9月までは単純比較が出来ないが、ただ回復基調であることは間違いない。	旅館業 山口市
	売上高は前年比10%の増加。スポーツ施設や河川プール等の利用が増加したため入浴者数が増加したが、気温の上昇や雨天の影響で客足が伸びなかった。原油価格の上昇や、物価高により資金繰りは改善されなかった。	旅館業 長門市
建設業	中電への工事申請131件(当支部105件)、前年同月134件(同116件)。太陽光発電への申請32件(前年44件)、オール電化申請38件(前年54件)。LED街路灯への切り替え・新設申請8件(前年11件)であった。	電気工事業
この30年余りで7割に及ぶ従業者の減少により、工事量がやや回復するも対応できず、得意先からの受注を断るケースも出始めた。	左官工事業	
8月はお盆で営業日が少ないが、官公需の発注が多く忙しかった。民需の発注は少なかった。酷暑の中、70～80代の従業員が一生懸命働いている状況は変わらず、人手不足が解消できないでいる。技術の引継ぎは、事業継続のために後回しにできない重要な事であり、心配している。	管工事業	
県の発注件数が少ないので、競合が見込まれる。使用している積算ソフトが同等で、入札価格も同等となり、入札で殆どの工事がくじ引きとなる事が多い。	一般土木工事業 柳井市	
8月の受注高は、対前年同月比26.5%。今年度の累計では、対前年比72.3%。	一般土木工事業 萩市	

	長門地区の公共工事の発注高は、7月までは例年並みであったが、8月の発注高が例年の7割弱に落ち込んでおり、9月までの早期発注が必要。	一般土木工事業 長門市
	例年、夏場は大変厳しい作業環境だが、年々暑くなり、特に本年は異常とも思える暑さで、現場での作業効率よりも熱中症予防対策を最優先に対応しなければならない状況であった。職人の健康維持のため、収益は二の次とならざるを得ないのが実情である。	屋根工事業
	各社忙しい状況だが、地域によって見積件数に差が生じている模様。人手不足で工場での加工作業が進まない等で影響が出ている組合員もある。公共工事の入札不調（現場監督が足りない、資材高騰により予算が合わない）の情報も増えている。原材料だけでなくガソリン代、電気代等の値上げが続いておりコスト面でかなり影響が出ている。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は7月と同様に低調で、輸出関係は特に1/3以上のマイナスで、国内向けも4.3%の減少であった。燃料費は1.2円の値上げとなり、月毎の価格変化に一喜一憂している。軽油引取税は何とかならないかとの声が多い。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年比50%の増加となった。部品調達については大分改善された。燃料価格は原油価格が高水準で推移している。	一般貨物自動車運送業 防府市
	依然として燃料高騰が止まらない。今後更なる高騰も予想され、引き続きお客様への値上げ交渉をせざるを得ない状況である。倉庫保管案件は安定している。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+36.9%（令和5年7月1日～令和5年8月20日分）。7月1日～31日分は+29.9%、8月1日～20日分は+51.8%。前々年度比では、それぞれ+53.5%、+46.7%、+67.6%になった。回復しているように見えるが、前年、前々年がコロナ禍で大幅に減少したためであり、令和元年度7月分比（コロナ禍以前）では▲26.5%。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。7月分については、周南+32.8%、下松+20.3%、光+34.1%、防府市地区が+18.9%で、組合員の全域では+32.0%、地区外（員外）+14.5%、合計+29.9%（+3,726千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上がり（前月407.5\$/トンが今月417.5\$/トン）、フレート（輸送）コストも上がり（前月10,500円/トンが今月10,700円/トン）。為替は円安（前月142.27円/\$が今月142.30円/\$）となり、燃料単価は前月より+1.4%上がったが、前年8月比は▲22.1%と下がっている。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もある、慢性的危機的に不足している。各タクシー会社とも、利用客の拡販よりも、乗務員確保に苦心している。8月1日から、県内のタクシー運賃が約10%改定になった。乗務員の待遇改善が目的にされており、乗務員、稼働車両が増加して、需要供給のバランスが改善することが期待される。	一般乗用旅客 自動車運送業
	8月も対前年比同等で推移している。	港湾運送業

その他	7 月同様に山口県ではまだ景気回復の実感はない。10 月から最低賃金が上がるが、介護保険報酬は国で定められた通りで上がるわけではないため、介護業界では人件費の高騰により更なる減収となる見込みである。山口県では、日越外交関係樹立 50 周年を記念して、ベトナム・ビンズン省と新たに介護分野での協力に関する覚書の締結された模様であるので、今後の動きにも注視していきたい。	介護事業
-----	---	------